

KFAW 国際理解セミナー

「2020 のびのび Communication ～国とジェンダーをこえて～」

- ◇ 日時 2020年2月9日(日) 13:00～16:00
- ◇ 場所 北九州市立男女共同参画センター・ムーブ 5階 大セミナールーム
- ◇ プログラム
 - 【第1部】
 - ・北九州市立大学生による発表「SDGsについて」
 - ・北九州市立大学法学部「田村ゼミ」による活動紹介
 - ・行政官リレートーク「自己紹介／自分の国について」
 - 【第2部】
 - ・ワールドカフェ
 - テーマ ①「あなたが身近に感じるジェンダーに関するエピソード」
 - ②「皆が生きやすいジェンダー平等の社会とはどのようなものか」
 - ・まとめ、記念写真
- ◇ 参加人数：82名（うち男性25名）
- ◇ パネリスト

JICA「行政官のためのジェンダー主流化政策2019(B)」研修員9名

 - Ms. BOLADUADUA Almita ミタさん(フィジー)
 - Ms. MAKURAU Mere Wati メレさん(フィジー)
 - Ms. SHAMIM Zafiya ザフィアさん(フィジー)
 - Ms. ABOUZEID Lana Mohamed Mohamed ラナさん(エジプト)
 - Mr. MOHAMED RASHEED ラシードさん(モルディブ)
 - Ms. ALI NISHA ニーシャさん(モルディブ)
 - Ms. RAMIREZ SAN MARTIN Bernardita Loreto. ベルさん(チリ)
 - Ms. DEB I Y Tayuud Z.S. タイードさん(パレスチナ)
 - Ms. ISSA Shurq A.A. シュルクさん(パレスチナ)

JICA Palestine Office, Clerk1名

 - Ms. BARAHMA Hanaa ハナさん(パレスチナ)

【実施内容】

KFAW は、JICA のジェンダー研修で来日中の世界各国の行政官たちをお招きし、身近に感じるジェンダーの課題や、どうすれば皆が生きやすい社会になるかについて、公募で参加した市民と、お茶やお菓子をいただきながら気軽な雰囲気の中で自由に意見交換を行うワールドカフェを開催しました。

第一部では、まず、北九州市立大学地域創生学群 ESD プロモート実習の都甲真以さんが、「SDGs について」と題し、SDGs 全体の説明と自分たちの活動を紹介し、その後、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」の重要性、日本における現状と課題について問題提議していただきました。

次に、同大学法学部田村ゼミから、法学の見地から多文化共生社会や性的マイノリティ等について研究している日頃の活動紹介がありました。



引き続き、行政官のみなさんに、自分たちの国の紹介とジェンダーの課題について説明していただきました。

◆ミタさん、メレさん、ザフィアさん（フィジー）

フィジーは、フィジー系、インド系、ヨーロッパ系、中国系など、多様性に富んだ民族で構成する島国です。ジャングルの滝や珍しい花々など手つかずの自然が残る人気のリゾートで、世界中の観光客が休暇を楽しみに来ます。フィジーのジェンダーに関する3つの優先課題は、女性に対する暴力の撤廃、意思決定におけるジェンダーの不平等、フォーマルセクターでの雇用と女性の生活設計です。



◆ラナさん（エジプト）

エジプトは、ヨーロッパ・アジア・アフリカ3大陸の中心に位置しています。365日のカレンダーや象形文字、パピルス(紙)などはエジプトで発明されました。観光はピラミッドやアブシンベル神殿、ナイルクルーズなどが楽しめます。エジプトのジェンダーに関する3つの課題は、女性に対する暴力の撲滅、女性の経済活動への参加、女性に対する負の文化的概念や慣習が現在でも継承されていることです。



◆ラシードさん、ニーシャさん（モルディブ）



モルディブは、1,000 を超える小さな島々が集まるイスラム教の国で人口は約 40 万人です。産業は漁業と観光業で多くのシュノーケリングスポットがあります。朝食から夕食までほとんどの料理にマグロが使われます。モルディブのジェンダーに関する情報は、地方自治体の選挙にクォーター制が導入され 33%の議席が女性にあてられること、女性の大統領就任も可能になったことですが議論も呼んでいます。



◆ベルさん（チリ）



チリは南北にとっても長く、気候は多様で、ビーチから氷河まで楽しめますし、イースター島のモアイ像も有名です。主な産業は銅・ワイン・食品で、日本はチリにとって大切な輸出国です。チリのジェンダーに関するトピックスは、中南米・カリブ地域のジェンダー会議の開催、パートナーのみ適用だった暴力に関する法の改正、同性婚の承認などで、ジェンダー問題で前進は見られるものの、女性の権利の憲法上の承認、暴力の撤廃、政治や公的機関への女性進出などの課題も抱えています。



◆タイードさん、シュルクさん、ハナさん（パレスチナ）



パレスチナの首都はエルサレムですが、現在は占領地のためパレスチナ自治区と呼ばれ、ガザ地区と西岸地区に分かれて居住しているほか、150 万人が周辺国の難民キャンプで暮らし、400 万人が近隣国のキャンプ以外で居住しています。パレスチナのジェンダー状況は、高等教育機関に在籍する女性は 60%であるにもかかわらず、公共機関で働く女性は 43%である以外は、法曹界では約 20%、管理職に至っては 12%しか達成できていない状態です。



10分間の休憩の後、第2部では、個人ワークの課題を作成し、それに基づいて30分×2回のワールドカフェを行いました。

【個人ワークの課題】

Q1. あなたが感じるジェンダーについてのエピソードを書いてください

Please write about gender issues around you.

Q2. 皆が生きやすいジェンダー平等の社会とはどのようなものであるか

What's your gender-equal society which is comfortable to everyone?

【ワールドカフェ】

第1ラウンド：あなたが感じるジェンダーについてのエピソード（30分）

第2ラウンド：皆が生きやすいジェンダー平等の社会とは（30分）

個人ワーク



ワールドカフェの様子



《 ワークショップでの意見の一部を紹介します 》

第1ラウンド：あなたが感じるジェンダーについてのエピソード

- ・「女性は子供の世話をすべき」「男性の管理職が多い」というのは、日本もモルディブも同じ
- ・どの国でも、女性に対する男性からのセクシャルハラスメントが横行している
- ・女の子だけが、両親から「料理などの家事を勉強しなさい」と言われる
- ・日本の国会中継を見ると、男性ばかりに見える
- ・男性は大学に進学したほうが良いが、女性は専門学校で十分と言われた
- ・日本のコマーシャルは、家事関連商品だと女性、車だと男性が出演していて固定概念がある
- ・ヨガ、ダイエットなどで検索するとほとんどが女性の写真ばかり出てくる、疑問も持たない
- ・祖母から、「スカートをはきなさい、女性らしい服装をしなさい」とよく言われた
- ・フィジーだと21歳位、日本でも25歳位になると女性は結婚のプレッシャーをかけられる
- ・国によっては、農村などで親が勝手に結婚相手を決め、それを苦にして自殺する女性もいる
- ・大学進学の際、女性は文系、男性は理系という固定概念がある

第2ラウンド：皆が生きやすいジェンダー平等の社会とは

- ・男、女、それ以外という枠組みではなく、個々人の生き方、視点、考え方が認められる社会
- ・身体的性差で役割を決め付けず、幼少期から社会的性差の刷り込みをしない社会、教育が大切
- ・「〇〇君」「〇〇さん」という呼び方を変えてみたら、社会が変わるかも…
- ・「みんな同じ」ではなく、異質であることをお互いに認め合える社会
- ・ジェンダーだけでなく、年齢、職業、文化などの差別もなくしていかなくてはならない
- ・女性差別撤廃条約の批准に伴う勧告など、法律からのアプローチを整備することも大切
- ・女性も自ら勉強とキャリア形成をし、様々な分野でリーダーとなる努力が必要
- ・イスラム圏では同性愛は犯罪とされる、宗教上の問題を解決するのは難しい

《 行政官の皆さんからのメッセージ 》

- ・今日は、日本と自国のジェンダーについて多くのことを知るとても良い機会でした。すばらしいディスカッションは、大きな経験となりました。ありがとうございます。(パレスチナ)
- ・日本と自分の国のジェンダーの課題について語り合いながら、多くの人の経験を学びました。日本の若い男性たちがジェンダーに対してオープンマインドなことには驚きました。皆が生きやすい社会に必ず変えられると信じています。(チリ)
- ・グループで、多くの人々とオープンにジェンダーを語り合い、それぞれの意見をリスペクトできたことはとても幸せでした。大きな学びの機会になりました。(フィジー)
- ・このイベントに参加して、ジェンダー平等に対する考え方や違いを理解することに大変役立ちました。皆さんに感謝します。(モルディブ)
- ・ワールドカフェの経験は初めてで、環境も違う日本の方々と、異なる視点からの様々な考え方を学びました。自分にとってとても貴重な体験でしたので、このような手法を帰国してから自分の仕事にも取り入れてみたいと思いました。皆さん、ありがとうございました。

【まとめ】

北九州市立大学地域創生学群「ESD プロモート実習」の落合詩乃さんから、参加者の皆様が、国際交流も交えながら、気軽な雰囲気でのびのびと意見交換していただいたことにお礼を述べてまとめました。

参加者全員で記念写真を撮影し、最後に北九市立大学生から行政官の皆様に記念品を贈呈してセミナーを終了しました。

今回のワークショップにご協力いただいた、北九州市立大学地域創生学群「ESD プロモート実習」のメンバーの皆さん、同大学法学部田村ゼミの皆さん、日曜日にも関わらずボランティア通訳をお引受けいただきました皆さん、そして JICA 研修の行政官の皆さん、ご参加いただきました全ての皆様方にお礼を申し上げます。

今後も KFAW は SDGs ゴール5の達成に向けて、様々な取り組みを進めていきたいと思いをします。

